みんなで築こう　人権の世紀
～考えよう 相手の気持ち　育てよう 思いやりの心～

おおさき人権フェスタ２０１４

12月7日（日）、町中央公民館において、『おおさき人権フェスタ２０１４』が開催されました。

当日は、上仮屋恵さん（歌）、中村米子さん（ピアノ）らがオープニングを飾り、その中で『人権のうた～つながる～』（作詞：社会教育課・作曲：中村米子）が初披露されました。

開会行事として、小学校５・６年生を対象に募集した人権作文と、中学生を対象に募集した人権標語の表彰式が行われました。

人権に関する取組の発表では、行政（町教育委員会）・企業（株式会社ジャパンファーム）・学校（菱田小学校、大崎中学校）がそれぞれ取り組んでいる教育や人材育成などの事例発表が行われました。

講演会では、歌手の米良美一さんを講師に迎え、テーマ『生きながら生まれ変わる』について講演が行われました。

先天性骨形成不全症という難病を抱え、幼少期から養護学校での生活が続き、いじめられて苦しんできた体験談など、時折、宮崎弁を交えて話されました。米良さんは「小さいころから、いじめられたり、差別されたこともありました。親の影響もあって、社会を恨んで生きてきました。しかし、ある人との出会いで生まれ変わることができました。まず、他人のせいにばかりしてきたことを改め、敵は外ではなく自分自身の内側にあることを学び、自分を認めることから始めました。」と苦しかった生い立ちから、どうやって生まれ変わったかを優しい口調で語ってくれました。最後に『ヨイトマケの唄』を天使の歌声で披露してくれました。

人権作文の部（小学生）最優秀賞
大丸小学校５年　柳別府　琴音さん
『みんなが笑顔で過ごせる世の中に』

私は、歩いたり、走ったりできる。それが当たり前で何の不自由も感じたことがない。でも、世の中には、歩きたくても、走りたくても、できない人がたくさんいる。

修学旅行で熊本城に行ったときに、車いすに乗っている男の子を見かけた。その子も私たちと同じで、修学旅行の最中だったようだ。となりには女の人が立っていた。つきっきりで男の子のお世話をしていた。その様子を、私はだまって、ただ見ているだけだった。

私は友達といっしょに天守かくまで上り、熊本市内の景色をながめることができた。広々として気持ちよくすずしい風を浴びた。でも、途中の階段はとても急で、そしてせまく、私たちでさえ上るのに苦労した。

あの男の子のことを思った。一番上まで行けたのかな。そばにいる女の人がおんぶしたのかな。いや、無理だったかもしれない。そう思うと、せっかくのすばらしい景色も、少しどんよりと曇ってきたような気がした。

もし、私が車いすに乗って生活していたらと考えてみた。親に心配をかけたくなくて、一人でやろうとして失敗ばかりしているかもしれない。逆に、何もかも親にたよってしまって、自分では何もせずに、わがままな子になっているかもしれない。これからのことが心配で悪いことばかり考えて、笑顔になれずに、性格までが暗くなってしまうかもしれない。いろいろなことを思いめぐらすうちに、とても重たい気持ちになっていった。

だけど、熊本城で見たあの男の子は、ほかの友達の中で楽しそうに笑っていた。修学旅行がとても充実しているような、満足した笑顔だった。

きっと、体が不自由になってから、たくさんのことを悩み、考え、苦しんだことだろう。本人はもちろん、親や家族、そして周りで支えている人たちと、いろいろなことを相談したことだろう。そして、今できる一番いい方向へと進んで来たのだろう。だから、あんなすてきな笑顔になれたのだろうと思った。

世の中には、事故や病気のせいで、体が不自由になった人がいる。歩けなくても、聞こえなくても、物を持てなくても、みんな私たちの仲間だ。

ただ「かわいそうだね。」と同情するだけでは何も解決しない。全ての人がいっしょに生活できる世の中にしていこうと考えなくてはいけないと思う。みんなで話し合って、協力し合って、助け合っていけばいいと思う。いろいろな知恵を出し合えば、優しさが生まれ、その優しさがみんなでいっしょに、思いやりをもって笑顔で生活できる世の中がきずけると思う。

今度、熊本城で会った男の子のように車いすに乗った人に会ったら、「こんにちは」とすてきな笑顔であいさつしたいと思う。

（原文のまま掲載）